

「共通プラットフォームさいたま版」の開発・実証

総務省「平成29年度データ利活用型スマートシティ推進事業」を活用した取り組み概要

ICT街づくり推進会議スマートシティ検討WG資料

平成30年5月

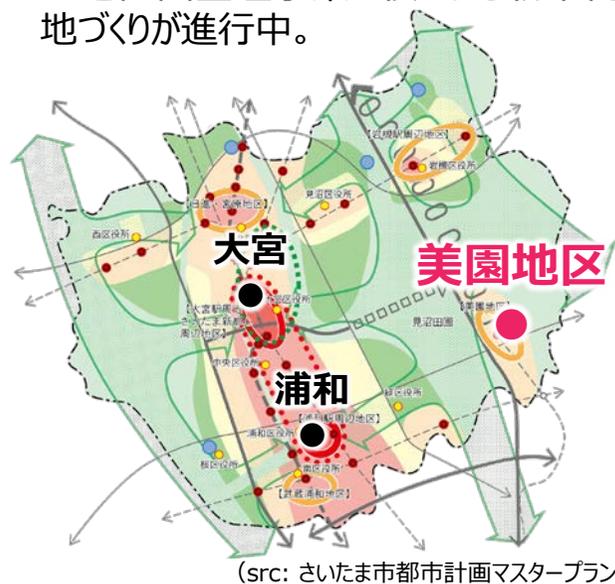
0. 背景・位置づけ ①さいたま市美園地区における“公民+学”連携の枠組み

さいたま市の“副都心”の1つ「美園地区」において、新たなまちづくりを推進する情報発信・活動連携拠点 = アーバンデザインセンターみその[UDCMi]を起点に、「公民+学」の連携による各種まちづくりプロジェクト・事業が進行中。

その重点プロジェクトの1つとして、「共通プラットフォームさいたま版」の開発・実証が取り組まれている。

対象地「美園地区」の概況

- 市の“副都心”の1つとして、約320haの土地区画整理事業を核とする新市街地づくりが進行中。



(src: さいたま市都市計画マスタープラン)

- まちづくり課題:

生活利便性の向上
(夜間人口を増やす)

市の副都心に相応しい都市環境づくり
(滞在人口を増やす)

経済活動の活性化
(昼間人口を増やす)

対流・滞留の促進
(交流人口を増やす)

地区まちづくりの一層の推進

さいたま市のスマートシティ施策

- 総合特区「次世代自動車・スマートエネルギー特区」をベースに、平時の低炭素化／災害時のレジリエンス向上を核とする施策展開。
(第1期:2012～16年度、第2期:2017～19年度)
 - ハイパーエネルギーステーションの普及
 - スマートホーム・コミュニティの普及
 - 低炭素型パーソナルモビリティの普及 など

スマートシティさいたまモデル構築に向け、先導事業のフィールド実践

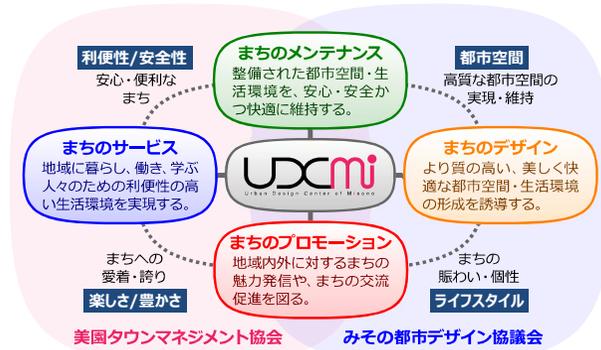
社会情勢・政策トレンド

- 地方創生の推進
- 人生100年時代
- 超スマート社会の実現
～Society 5.0～
- SDGsへの取り組み
- 2020東京五輪 …etc

フィールドに根ざした取り組み推進

UDCMiを起点に“公民+学”連携のプロジェクト共創

- 地区まちづくり拠点 = アーバンデザインセンターみその[UDCMi]を起点に、「公民+学」の連携に基づく事業創出・実証・実装化が推し進められている。



重点プロジェクトの1つとして、「共通プラットフォームさいたま版」の開発・実証を推進

0. 背景・位置づけ ②「共通プラットフォームさいたま版」の目指すもの

市内外他地区への普及・展開も見据えつつ、「共通プラットフォームさいたま版」をベースにした地区まちづくり課題解決モデルの構築を図る。

美園地区のまちづくり理念

新価値創造

多世代健幸

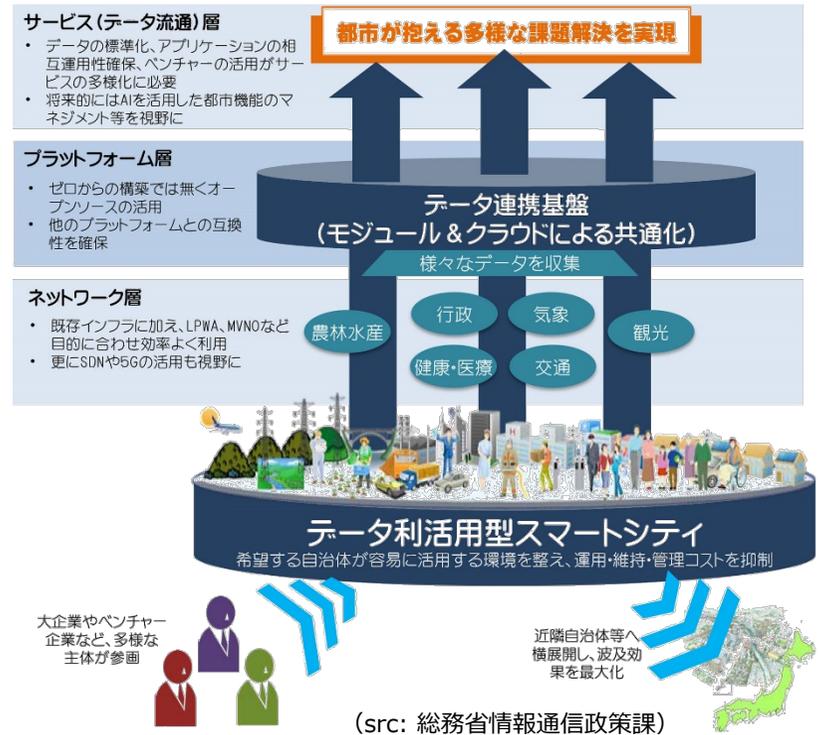
次世代環境

理念実現に向けた現況・課題

- 都市開発の進捗に伴い、**宅地造成や道路等インフラ整備が概成**しつつあり、まちのビルドアップが進行中。
 - 住宅供給が本格化し、子育て世代を中心に人口急増中。
 - 市民・企業に「選ばれる都市」づくりに向けて、行政・民間サービスの先導モデル事業のフィールド実証を展開する絶好期。
- 大宮駅周辺・浦和駅周辺等の中心市街地とは異なる、**新たな郊外型ライフスタイル構築**への期待。
 - 居住・農商工・教育・文化・余暇・福祉・医療・スポーツ健康等の地理的近接性を活かしたプログラム連携・融合化。
 - 都市開発の構想・計画時には事前想定され得なかった社会変動への事後的対応（ICT等技術革新、環境意識・健康志向など）。
- **2020東京五輪**を見据えたインバウンド対応。
 - 埼玉スタジアム2002（五輪会場）を有する街として、住民の生活環境や立地施設の事業活動等と両立した**観戦者交通処理**。
 - 埼玉高速鉄道線「浦和美園駅」・東北自動車道「浦和IC」を有する交通接続性を活かした、**市内観光施設等への対流誘導**。

全国的政策課題

- **レイヤー縦断型施策**として、インフラ整備が基礎のスマートシティとは異なる、**データ利活用型のスマートシティ構築推進**。



「共通プラットフォームさいたま版」をベースにした地区課題解決モデルの構築

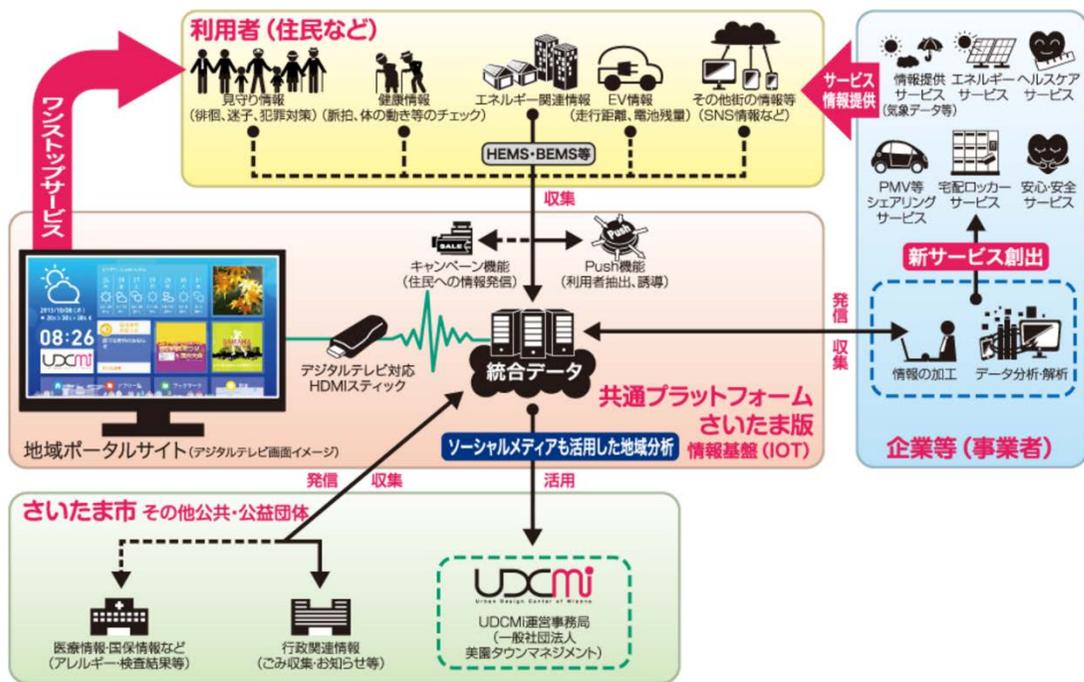
- エリアマネジメント（地区の生活環境の向上、サービスマーケティング等）に係る施策検討や事業創出・改善プロセスにおける、地域に係る様々なデータを分野横断活用するビジネスモデルを構築。本事業モデルの市内外他地区への水平展開を図る。

1. 事業構想 ①「共通プラットフォームさいたま版」構築イメージ

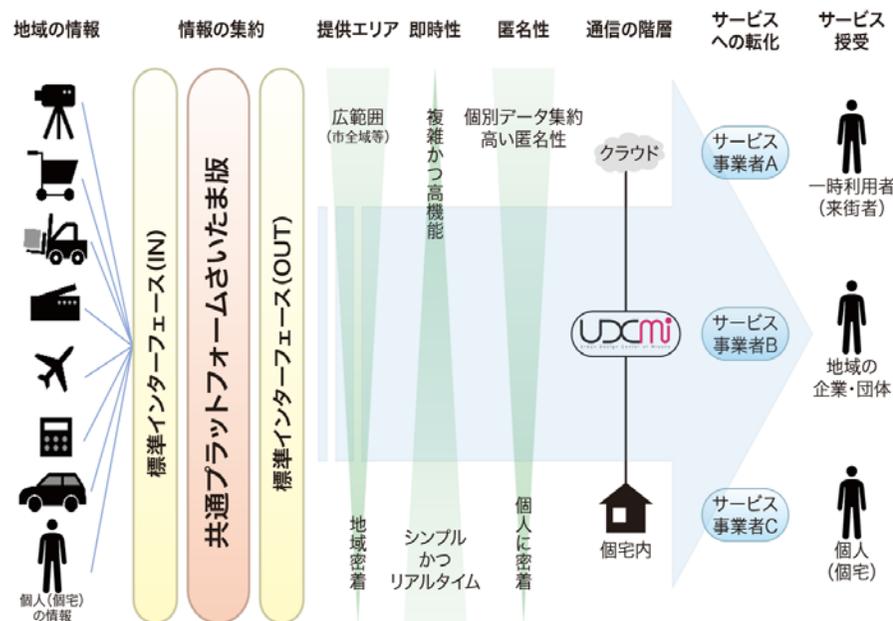
「スマートシティさいたまモデル」の実現に向け、さいたま市美園地区を先導モデル地区として、デバイスやメーカーを問わず、様々な「まちのデータ」の収集・管理・活用を可能とする情報共通基盤を構築し、各種生活支援サービスをワンストップで提供することで、ライフスタイルやライフステージに応じた生活環境の実現と社会コストの最適化を図る。

また、サービス提供者が、事業規模を問わず本システムに参画できるオープンなシステムとし、新たなビジネス・コラボレーションの創出、地域経済活性化を図る。

【プラットフォーム概念図】



【サービス特質と処理階層】



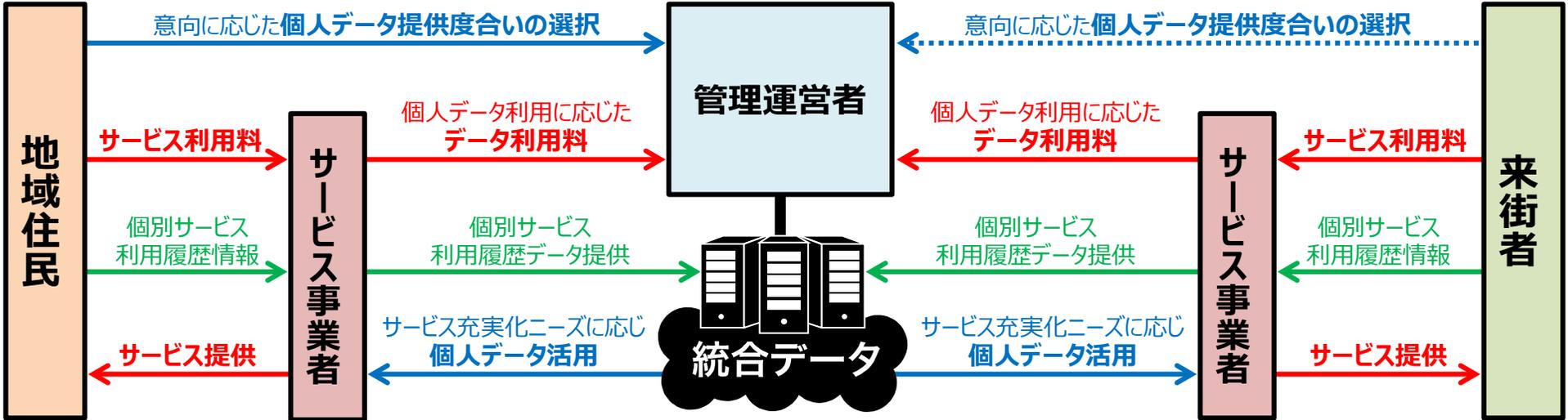
※ 地域経済活性化の観点から、事業規模を問わず、あらゆる地域サービス事業者が本システムを活用できるよう、オープンソースや標準化プロトコルを積極的に活用、APIを公開し、他サービスや他データプラットフォームとの連携を行う。

※ 「総務省SCOPE(国際標準獲得型)」を活用して、本地区をフィールドに慶應大等により「スマートコミュニティサービス向け情報通信プラットフォーム(SCIP)研究開発」が進められている。同研究では、国際標準化も視野にSCIPやSCIP用API、個人情報管理システム(VCRM)等が研究開発中だが、本事業はその研究開発成果も活かし、そのフィールド運用(商用実装化)を図る位置づけとする。 3

1. 事業構想 ②ビジネスモデル構築イメージ

データ収集・管理・活用を可能とする情報共通基盤「共通プラットフォームさいたま版」のシステム構築を行うとともに、**同システムを活用したビジネスモデルの構築**を図る。

＜「共通プラットフォームさいたま版」の管理運営ビジネスモデル構築イメージ＞



データ活用サービスイメージ (住民向け)

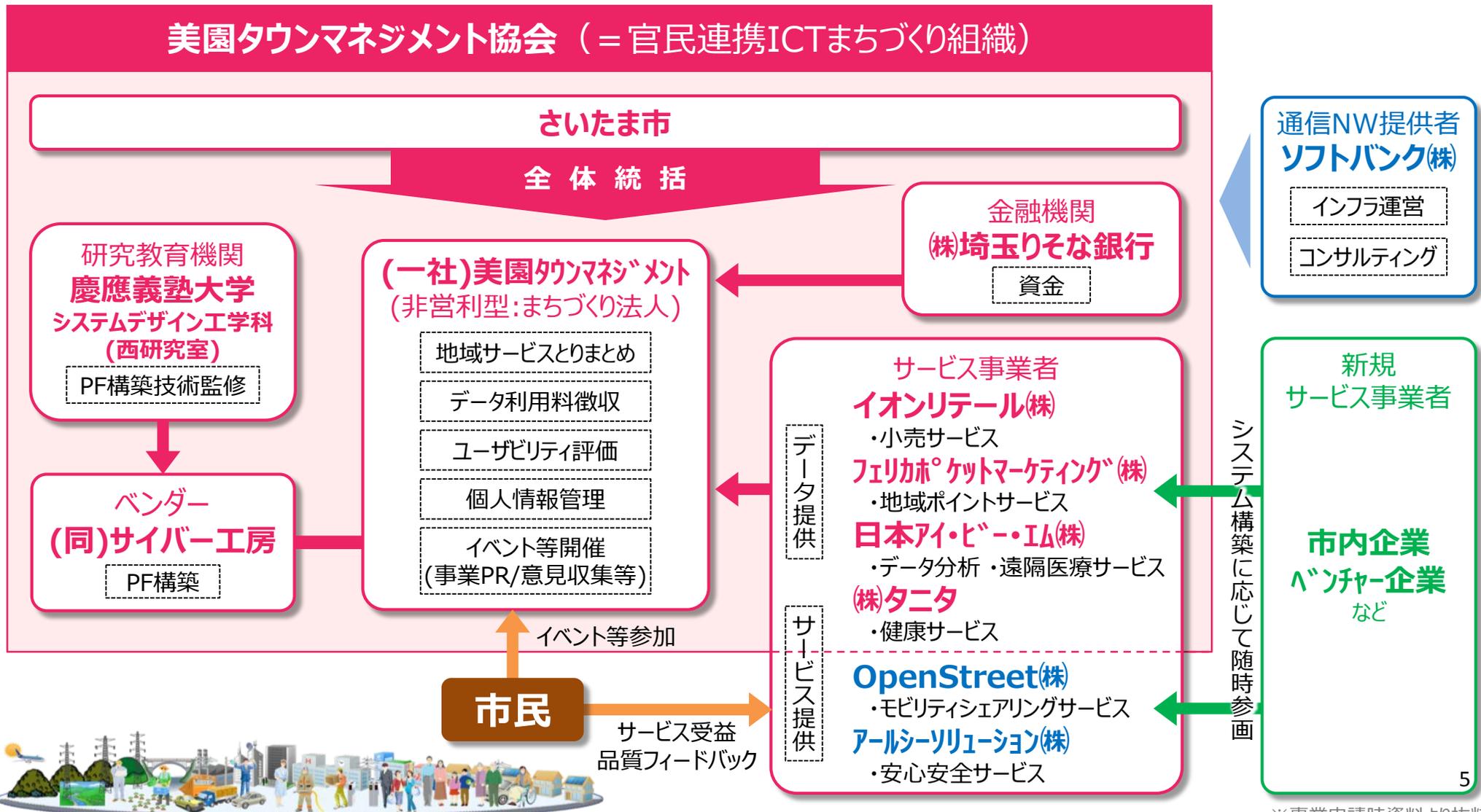
- 健康事業データ（活動量データ、体組成データ、購買データ）を活用し、スマートカードによる地域ポイント還元や、自転車利用・歩行に係る個人ごとの傾向を分析したレコメンドサービス。
- BLEインフラを通じて収集した人・自転車・ペット等の位置データを活用した子供や高齢者の見守りサービス、自転車・ペットの探索サービス、ショッピングセンター内での迷子対策サービス。
- 住宅内設置センサーからのエネルギー・温度・湿度・照度・CO2データ等を収集し、個人の傾向を分析したデータを活用した、快適な暮らしのサポートサービス、高齢者見守りサービス(熱中症対策など)。
- 生活データに合わせて、防災データ・地域データを収集し、各家庭のデジタルTVからの情報提供を可能とする「地域コミュニケーションサービス」及び「まちのかわら版」アプリサービス

データ活用サービスイメージ (来街者向け)

- モビリティシェアリングサービスデータ及びSNSデータの活用による、効果的な来街促進策(情報発信PR施策や自転車シェアリングステーションの配置計画検討など)への反映。 など

1. 事業構想 ③推進体制

美園地区の加速度的な成長・発展に向けて「公民＋学」が連携し、最先端の技術や知見を活かした「総合生活支援サービス」の企画・実証・事業化に取り組む「美園タウンマネジメント協会」の枠組みを活用し、効率的・戦略的にエコシステムを構築を図る。



1. 事業構想 ④ 補助事業実施体制

専門的な知見を有する学識者を委員とした、「平成29年度データ利活用型スマートシティさいたまモデル構築事業検討委員会」を設置・開催し、事業の推進に向けた意見交換の場として。

■ 委員会委員、オブザーバー

委員長	慶應義塾大学 理工学部システムデザイン工学科 教授	西 宏章
委員	工学院大学 建築学部 まちづくり学科 教授	中島 裕輔
委員	慶應義塾大学 理工学部電子工学科 准教授	久保 亮吾
オブザーバー	美園タワーマンジメント協会 最高顧問	梅本 和典

■ 事業者（代表申請者、共同申請者）

代表申請者	(一社)美園タワーマンジメント	事業とりまとめ
共同申請者	さいたま市	全体統括

■ 事業者支援（請負外注）

(同)サイバー工房	共通PF構築、セキュリティ体制構築
ソフトバンク(株)	アプリ開発、事業設計支援
フェリカポイントマーケティング(株)	地域ポイントインフラ整備
エビネットネットワークス(株)	TVを介したインフラ体制整備
アールシーソリューション(株)	災害情報配信アプリ開発

2. 事業推進上の現状課題 ①戦略顧客の絞り込み

ビジネスモデルの構築向けには潤沢なデータ利活用を創出していく必要があり、そのためのデータベース有用性向上には、まずはデータの蓄積が必須。

このため、本地区の人口構成において特徴的な「新規転入住民」および「子育て世代」にターゲットを絞り込む。

美園タウンマネジメント協会のこれまでの取り組み



特定ニーズ向けサービスや、有用性の分かりやすいプロモーション事業など、**ターゲットが明確な企画・事業ほど好評価**を得ている。

潤沢なデータ利活用に向けて、どのターゲットに向けてサービス設計するか？

地区の現況(1)：新規住民の転入

- 住宅供給の進展により、新規転入住民の急増。
※UR施行区画整理区域(約260ha)の基盤整備完了を受け、土地活用が本格化。

ターゲット：
新規住民の「コミュニティ形成」

- 地域コミュニティ活動の活性化
- 「新住民×旧住民」や「新住民×新住民」

地区の現況(2)：子育て世代の急増

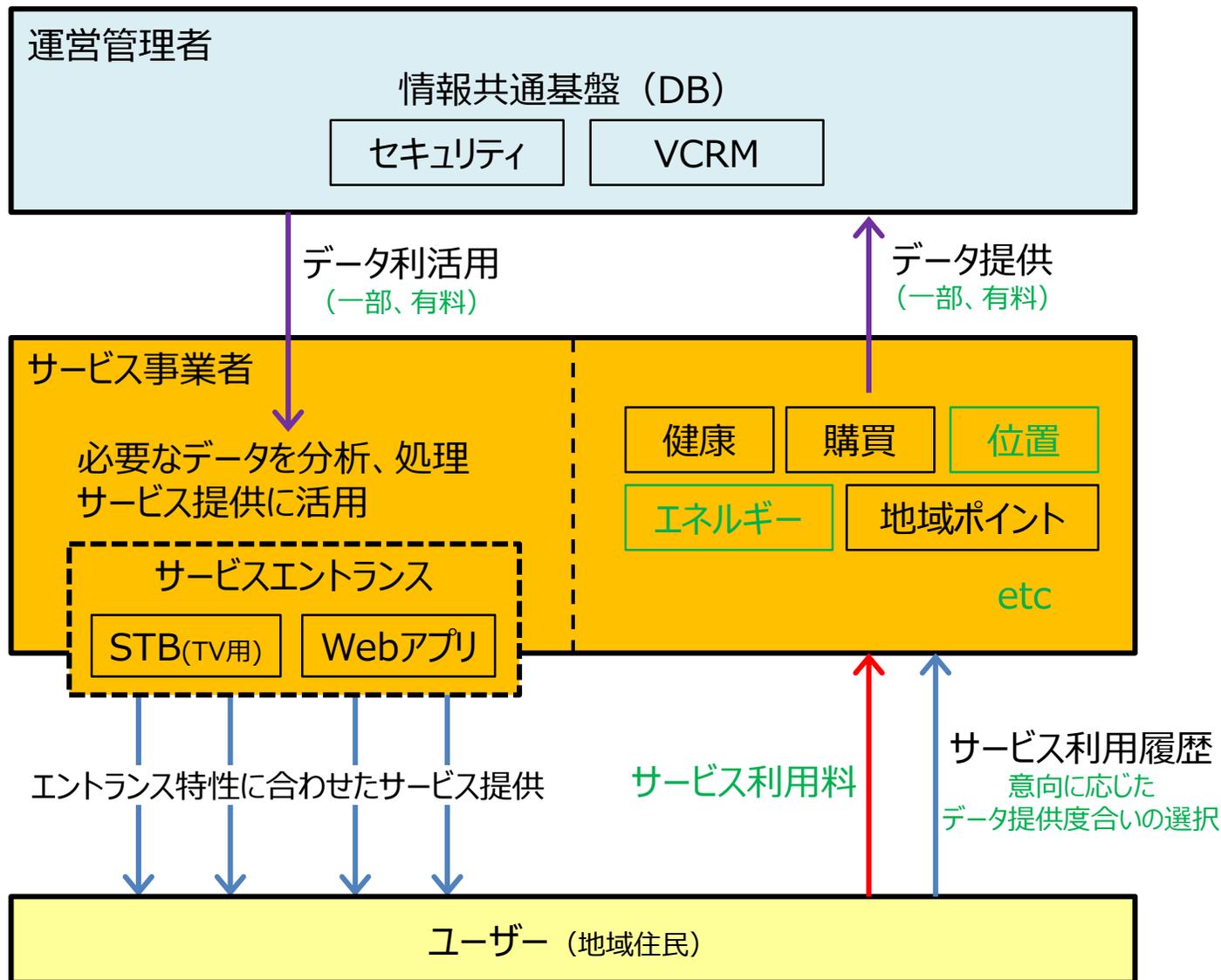
- 子育て世代の人口割合が市内他地区より高く、依然として増加傾向にある。
※2012年開校の美園小学校は、現在県内1の児童数。2019年開校に向け新設小学校・中学校の建設も進行中。保育施設の新規開設も進む。

ターゲット：
子育て世代の「ゆとりの時間創出」

- 満足度を高めることにより地域ブランド力増強
- 担税力のある人口層が循環・流入する土台

3. システム構築概要 ① 開発対象システム構成概要

将来的なデータ連携の可溶性を考慮の上、情報共通基盤(DB)の基本機構を構築し、まずはデータ蓄積を図る。

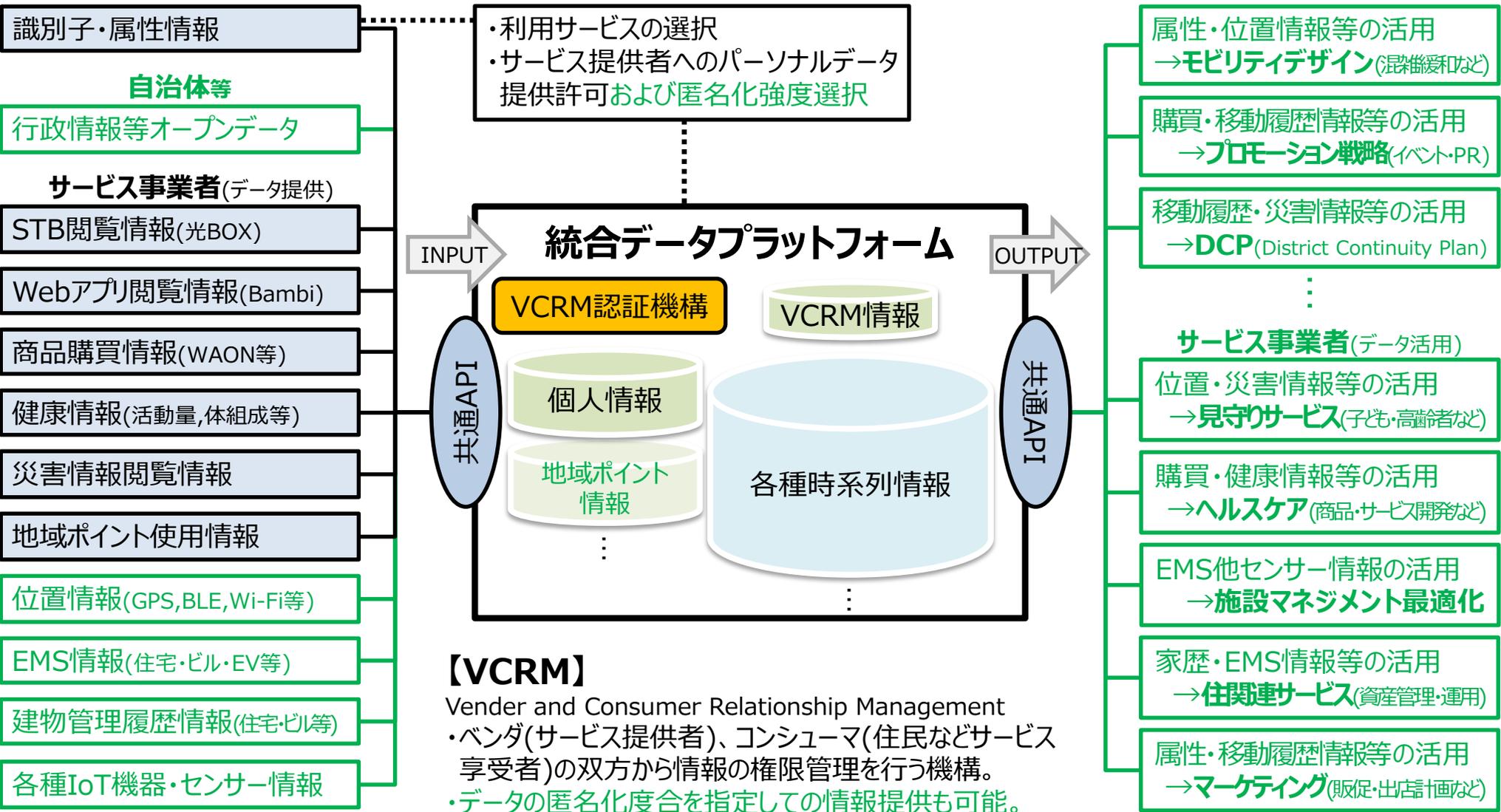


黒字 : H29年度開発実施分 緑色 : H30年度以降の実施分

3. システム構築概要 ②システム構成全体像

【STEP1】将来的なデータ連携の可溶性を考慮の上、情報共通基盤(DB)の基本機構を構築し、データ蓄積を図る。

【STEP2】ビッグデータを活用し、エリマネ施策展開や、それと連携した新たな地域サービスの構築を図る。



※サイバー工房作成資料を抜粋再編

3. システム構築概要 ③サービスエントランス構築 (Webアプリ)

子育て支援情報配信アプリ「美園子育てスタイル : Bambi」をカスタマイズし、端末やOSへの依存を軽減するWebアプリ化を実施。



イベント情報	民間商業施設や公共施設で開催する子育て世帯向けのイベント（独自のクロールエンジンで抽出）を紹介。
美園の暮らし	地区内在住の子育て世帯から伺った身近な暮らしのスポットや、新たに本地区で展開される地域サービスを紹介。
まちのお医者さん	美園地区及び近隣の医療機関や、市外の医療機関を緊急時に活用した際などの控除方法等を紹介。
みまもり防災	防犯情報「県警メールマガジン」や、防災情報「埼玉県防災情報メール」などのリンク先を紹介。



▲コンテンツ画面



▲周知イベント

3. システム構築概要 ④サービスエントランス構築 (STB)

NTT西日本製STB「光BOX+」をカスタマイズし、TVを介した家庭向けサービス情報配信を行う仕組みを構築。

STB活用サービス配信TV画面イメージ

地区に関するお知らせ
アンケートなど

エリア天気予報

生活に役立つ
地域密着情報

防災情報発信
(仮称:みその防災コール)



- 配布計画 (調整中)**
- **町会・自治会**：新規住民のコミュニティ形成サポートの実証
※本地区にて進むスマートホーム先導モデル整備街区を中心に調整中)
 - **保育園・幼稚園**：子育て支援機能の実証

4. 今後の取り組み概要

ソフトバンク社のプロモーションノウハウを活用しつつ、美園タウンマネジメント協会参画各社とシナジー効果の出る民間企業のアライアンスを進め、データ蓄積のストーリーを増やす。

今後の取り組み概要

● **データベースへのインプット情報の充実化**

- 共通PFへのデータ連携量、通信量の増加
- 共通PFへのデータ提供ユーザー数の増加

● **データの利活用サービスを展開**

- まちの課題解決に向けたサービスの検討
- データの利活用サービスモデルの実証展開

● **費用便益比向上に向けた活用展開**

- 共通PFの維持・メンテ費削減
- 情報銀行事業等への活用展開の模索

【新規サービスイメージ例】



妊婦

- * BMIを適正管理したい
- * ネットで買い物したい



* BMIの状況に応じて購買促進

【DB】



ターゲット層
(新規住民・子育て世代)
におけるビジネスサイクル構築

シニア層など
他ターゲット層向け
サービスに転用

※Bambi等、構築するシステムは、バックエンド・フロントエンドともにシニア向けにも転用可能。